（第三種郵便物認可）

しずおか新聞感想文コンクール

第18回「2025年度しずおか新聞感想文コンクール」（静岡新聞社・静岡放送主催、県教委、県私学協会など後援、静新会協力）の審査結果が発表された。応募総数は4684点。小学生、中学生、高校生の３部門で審査は行われ、最優秀賞にはそれぞれ、東海大静岡翔洋小６年・山下乃々華さんの「忘れない　広島への思い」、静岡大付属静岡中２年・小曽根杏樹さんの「共生の意味」、常葉大常葉高３年・大石侑奈さんの「お裾分け文化の再来」が選ばれた。学校賞（団体賞）は応募作品数などを総合的に選考し、小学生の部から１校、中学生の部から３校、高校生の部から１校が決定した。

最優秀賞

忘れない　広島への思い

小学生の部（静新会会長賞）

山下乃々華さん　東海大静岡翔洋６年

「悪魔の兵器」。地球に「無くりとも無いてはいけない」という言葉が私の心に強くひびきました。今から八年前、広島に落とされた原爆で二四万人が亡くなり、命が助かっても放射線の影響で病気などになり、長年苦しんでいた被団連の田中さんの言うように「悪魔の兵器」だと思いました。

今年の夏休み、私は広島平和記念資料館へ行きました。資料館の中は、とても静かでした。地球上で日本人だけでなく、いろいろな国の方達がいましたが、誰一人しゃべっている人はいませんでした。中には、目に涙をうかべている人もいました。資料館の展示は、それほど原爆のおそろしさを伝えるものでした。残された服はボロボロで血の跡がたくさんついていました。大やけどをした人々が御幸橋に集まっている様子はあまりに悲さんで写真を撮るのをためらったという記述があった。絵を描いて壁に貼る人、音楽に合わせて手トランポリンを跳ぶ人、昼寝をする人、家族やスタッフと会話をする人。その空間は「その人がその人らしくられる」自由な雰囲気に満ちていた。私は、障害者施設は学校のように時間でやることが決められ、みんなが同じように活動するものだと思っていたので、その自由さに驚いた。

スタッフの方によると、障害のある人やその家族は、できないことが多いためにいろいろな孤立感や生きづらさを感じてしまうことが少なくないという。そこで認定NPO法人クリエイティブサポートレッツでは、多様な人との交流や、正解も間違いも存在しないアートを通して、ありのままの自分を表現できる場を提供しているそうだ。一人ひとりの豊かな表現からも、そこにいるすべての人が人として大切にされているのだと感じた。

この時、ふと、私が幼かった頃の祖母のことを思い出した。私の祖母は、ある時から病気の影響で車椅子を使うようになった。少しずつ日常生活ができないことが増え、次第に人との関わりを避けるようになり、表情が暗くなっていったと母から聞いた。少しでも外に出て人と関わり、何か活動してほしい考えに家族は、ある日、切り絵教室への参加を勧めたという。はじめ祖母は「手がうまく使えないから」とためらっていたそうだが、実際に参加してみるといろいろな人と交流しながら自分のペースで自由に切り絵ができたことで、心に大きな変化が生まれたようだった。上手に切れずにイライラしたり、絵を私に見せてくれる祖母。「思ってたよりも上手にできたね」と話してくれた優しい笑顔は、今でも私の記憶に強く残っている。

あの時、確かに祖母は人と関わることで自分の存在を再確認し、穏やかな心を持ってこれたのだと思った。このことから私は、社会全体がお互いの違いを認め、尊重し合うことができれば、特別な交流拠点がなくても当の障害者の「共生」は実現できると思うようになった。私は基本、地域での活動を多様な人との交流の場に積極的に足を運び、小さな一歩から「共生」を形にしていきたい。そして、未来のあるべき姿をこれからも私自身に問いかけ、考え続けたい。

共生の意味

中学生の部（静岡新聞社賞）

小曽根杏樹さん　静岡大付属静岡２年

お裾分け文化の再来

高校生の部（静岡県教育長賞）

大石侑奈さん　常葉大常葉３年

四国七十二万トンという数字は、令和六年に日本で本来食べられるのに廃棄されてしまった食品の重さだ。一方で七人に一人の子どもが貧困とされ、食事に困っている家庭も少なくない。食材が必要としている人びとに届いていない現状にを痛める。私はこの記事で公共冷蔵庫という取り組みを知り深く考えさせられた。公共冷蔵庫とは、生活困っている人たちが寄付された食品や日用品を冷蔵庫から、二十四時間無料で受け取ることができるというものだ。人目を気にすることなく食材を取りに行ける匿名性が特徴的である。この仕組みを知ったとき、現代に適した新しい支援の形だと感じた。

私は以前、学校でフードドライブを推進する活動をした経験がある。そこでは寄付された食品は、防災食や人気のない味のインスタント食品など偏りが大きかった。家庭で余ったものを寄付するという仕組みであるため、受け取る人の立場が十分に考えられていないというものだった。また父が営む運送業でも外箱が破損しただけで廃棄される食品があると聞いた。フードバンクに寄付することも検討したが、送料の負担が厳しい受け入れ基準のため実現はできなかったという。その中で、はじめに考えるとフードロスを減らすために公共冷蔵庫はこうしたハードルを下げる大きな可能性を秘めていると思う。

さらにこの記事を読んで「お裾分け文化の再来だと感じた。かつて日本には近所同士で食材を分け合う温かな習慣があった。しかし人口の都市集中や核家族化が進み地域の横のつながりは薄れていった。公共冷蔵庫はその文化が現代のニーズに合わせてよみがえったものだと思う。顔をあわせずに食材を分け合うことは今の社会に合った新しい形のお裾分けだ。

だが課題もある。公共冷蔵庫が単なる食品もらうに依存する人が増えたとき、援が必要な人に届かなくなる恐れがある。そうならないためには冷蔵庫を情報を発信する場にし、生活相談や自立支援につなげる体制が必要だ。例えば冷蔵庫の近くに地域の支援団体や就労支援、子ども食堂の情報を掲示するだけでも、人との新しいつながりが生まれるだろう。公共冷蔵庫を食のセーフティネットだけでなく、支援への入り口にすることで困っている人が孤立しない社会に近づけると感じた。

食品を介して人と人の思いやりが循環する社会、寄付する人には誰かの役に立てたという喜びが生まれ、受け取る人は自尊感情が広がっていくことを願う。

公共冷蔵庫 優しさ詰めて

寄付された食品で支援 ロス削減も

朝日新聞１月13日

障害者交流拠点 中心街に

浜松のＮＰＯ、28年開館へ

グループホーム複合施設内

シェアハウスや銭湯 一般も利用

学生、高齢者、バックパッカー…

にぎわい創出 期待

静岡新聞６月17日

「悪魔の兵器」地球からなくす

人も街も環境も

放射線の苦しみ

週刊ＹＯＭＯっと静岡８月３日

優秀賞

小学生の部

今沢璃星さん　浜松下阿多古６年
広がっていくこの想い

山崎碧透さん　静岡清水４年
戦争がうばうもの

山田乃愛さん　静岡千代田６年
勝敗より挑戦

山崎朔太郎さん　東海大静岡翔洋５年
今もなくならない戦争

中学生の部

糸賀愛哩さん　浜松日体１年
私の存在と自分らしさ

中山結月さん　静岡西奈１年
制服はいらないのか

松下大河さん　静岡城内３年
ＡＩ時代に建築家になるために

難波夏未さん　静岡北２年
失われゆく声に耳を傾けて

高校生の部

小林さわさん　富士２年
自由に生かされて

蛯名心咲さん　静岡雙葉１年
コメに宿る記憶

山内貫誌さん　富士２年
人工知能とのつきあい方

百瀬遙斗さん　浜松市立１年
様々な違いを尊重し、活かせる社会へ

学校賞

【小学生の部】東海大静岡翔洋　【中学生の部】日大三島　静岡北　静岡大成　【高校生の部】常葉大常葉

AI時代こそ 読解・思考・創造力役立つ

高橋健二　県立中央図書館長

審査員長講評

18回目を迎えた本コンクールに、今年は合計4684点の応募をいただきました。学校別の機応比は、小学校7・5%、中学校38・8%、高校53・7%で、高校生の割合が昨年よりさらに増加しました。題材別で多かったのは、戦後80年、コメ問題、ジェンダー問題、静岡茶の生産量に関する作品でした。その中でも審査会で高く評価され、各部門で最優秀賞となった二作品を紹介します。

小学生の部の山下乃々華さんは、原爆被害に関する記事で目にした被害者の言葉に心を揺さぶられ、広島平和記念資料館を訪れます。そこで体だけでなく心に深い傷を負った人々について学び、戦争や平和に関する理解を深め、その想いを周囲へ共有していくことの大切さに気づきます。情報に対する感受性の高さや行動力、周囲の人とも に平和社会を築いていきたいという強い意思が評価されました。

題材選びの段階から抜きんでていたのが中学生の部の小曽根杏樹さんでした。日頃から「共生」について課題意識を持っていたことから、認定NPO法人クリエイティブサポートレッツの活動に関する記事に注目します。そして実際に施設を訪ね自閉に生き生きと活動する利用者の姿を自の当たりにし、自分も多様な人との交流をしていこうと決意します。記事の読み取り、表現力、論理性、オリジナリティーなど、どの観点においても高評価で完成度の高い作品でした。

自身も学校でフードドライブの活動に取り組んだ経験のある高校生の大石侑奈さんは、記事で「公共冷蔵庫」を知り、集まる食品の種類の偏り解消や他者への思いやり醸成につながる可能性を見いだします。同時に、この取り組みを生活相談等の自立支援につなげる必要性に気づくなど、今後の地域福祉活動への期待や改善点を指摘しています。記事から学び取ったことを、そこに課題を見いだし自身の将来に想いを馳（は）せる姿が、明快な文章で見事に表現されました。

参考までに、審査会で提議された主な三点を記します。①記事を読んで何らかの行動を実践しその記録を書くという流れに、自身の考えがにじみ出る独自の記述が加わるとさらに良い。②伝えたいことは明確だが、その根拠となる事実やデータの裏付けがない主張が散見された。③他者に伝えることを踏まえ、より一般的な推敲（すいこう）や清書が望まれる作品が一部見られた。

人工知能（AI）と共存する時代だからこそ、新聞感想文コンクールで読解力・思考力・創造力等の向上に取り組んだ経験は、未来を担う世代にとって将来必ず役立つと確信しています。次回も奮ってご応募ください！

入選

【小学生の部】桂川勝成（静岡清水６）・松野世奈（静岡清水庄完４）・辻利麗禾（同６）・森下望月二翔（東海大静岡翔洋４）・薩川唯愛（同）・高松こころ（同５）・森沢光（同）・池田瑞紀（同）・成岡音栞（同）・沼田平翔（同）・高橋虹心（同）・鈴木星叶（静岡田町５）・名切絢音（同６）・北川凛花（同小長井梨帆（静岡５）・江川冬（静岡東豊田６）・青島大和（常葉大）・櫛木澪（静岡城南６）・宮沼瑠偉（同６）・橋本芹愛（同）・菅沼瑠偉（同６）・橋本弦咲（藤枝高洲南６）・佐々木光太朗（御前崎第６）・木村幸ノ介（磐田竜洋北５）・山本幸奈（浜松分通４）

【中学生の部】甲斐咲妃（伊東対馬３）・菅野咲太（宗（同２）・長地玲花（同）・鈴木富士（同）・稲毛優衣（沼津第五３）・渡辺祝凪（同）・石崎翔大（同）・加藤優衣（函南東１）・稲毛優衣（沼津第五３）・山田清華（富士富士川第一２）・井出陽南乃（富士宮大富士１）・西井奈乃（静岡清水第四２）・滝本愛心（同）・山本夏綺（同）・有沢琴奈（静岡清水第六３）・縄巻ひなた（静岡城内１）・落合萌羽（静岡学園１）・大江卓人（同）・落合萌羽（静岡学園１）・大木遥斗（静岡北２）・鈴木美尋（静岡長田南１）・丸山紗菜（同）・岡崎楓（同）・植陸斗・藤枝大洲３）・檜山奈那（同）・高岡柏斗（浜松中馬１）・白土花乃（同）・国安那奈（同２）・鈴木美羽（同）・吉本優花（同）・三好佑弥（同）・雨谷文乃（同３）・小野紗奈（同）・小関乃愛（同）・中村真（浜松富塚１）・松下颯真（同）・松原里紗（同）・渡家利香（同２）・横道真緒（浜松三方原１）・霜田和花（浜松中１）・大橋之心（同）・河合京（浜松若谷１）・平野蒼士（同）・宮本拓登（同）・四ノ宮環（同）・山本奉翔（同）・長谷川優乃（同２）・神谷凛美（同）・吉田怜（同）・片桐優羽（同）・渥美雄晨（同）・山本匠真（湖西３）・後藤杏奈（湖西鷲津２）・土屋怜（同３）・栗田春香（同）

【高校生の部】若林由樹（御殿場第２）・羽田友莉恵（同）・遠藤愛子（沼津西２）・菅沼彩乃（同）・森田りよ（同）・鈴木彩（同）・増田丈意（同）・石川愛菜（加藤学園２）・相川伊織（同）・石橋優規乃（同）・遠藤来加（相陽２）・末吉和華（同）・平本多帆子（同３）・二宮未来（富士２）・吉岡大珠（同）・ウルビタディマテイ蓮美（同）・宮城島愛美（清水国際３）・橋本夢亜（常葉大橋）・苅和凌羽（同）・佐野南都子（同）・荒田貴翔（同）・中村斗維（同）・寺田咲姫（同）・加藤あかり（同）・影山雄大（同）・山崎花心（常葉大常葉１）・中川舞乃（同）・石原香凛（同２）・佐藤結心（同）・松下愛美（同）・槙松奏々（同）・斎藤ほたる（静岡雙葉１）・小杉珠央（同）・紅林美菜（島田工３）・八木葵衣（島田櫂誠２）・柴本萌愛（相良３）・杉田大地（掛川東３）・村松奏美（同）・鈴木陽莉（同）・藤田心愛（同）・上野暁（同）・原山真翔（浜松工２）・安土あおい（浜松市立１）・今泉大河（同）・山田咲織（同）・長友真穂（同）・菊岡南那（同２）・渡辺穣（同）・戸田野恵（同）・大村もも（西遠女子学園２）・水野大馳（浜松南誠館３）・菊地鷹衣利（浜松白林１）・宮津真悠（浜松聖星３）・池野谷真美（同）・鈴木結真（同）

【審査員（敬称略）】県立中央図書館長　高橋　健二（審査員長）
県教育委員会教育長　池上　重弘
常葉大学長特命補佐　安藤　雅之
静岡大学教育学部教授　坂口　京子
静岡文化芸術大学文化政策学部教授　小杉　大輔
静新会会長　内浦　正夫
静岡新聞社編集局長　上原　広彦
静岡新聞社読者プロモーション局長　村上　智入

◀最優秀賞と優秀賞の作品は、こちらからご覧いただけます